

2023. **3.16** (木) 12:15~12:55

会場：A301

第 70 回応用物理学会春季学術講演会ランチョンセミナー

データ&マテリアル 材料開発 DX への挑戦

■講演

『データ循環はここまできた！材料データプラットフォームを目指す NIMS の取り組み』



桑島 功

物質・材料研究機構
データサービスチーム
主幹エンジニア

近年、オープンサイエンスの考えから、科学的情報は人類で共有するべきであり、あらゆる人々が研究成果にアクセスし利用できるようなするという運動が広がっています。このデータの蓄積・流通は、研究の透明性の確保にもつながる重要なものです。一方、材料研究では、データ駆動型研究のような大量のデータや AI を活用した研究の効率化・高速化が必要とされており、同様にデータの蓄積・流通が重要となっています。我々は、文部科学省「マテリアル DX プラットフォーム構想」の中で「データ中核拠点」として、その基盤となる材料データプラットフォーム「DICE: <https://dice.nims.go.jp/>」の整備を行い、マテリアルデータの収集・蓄積・流通・利活用を強力に後押ししています。講演では、DICE で展開している NIMS 物質・材料データベース (MatNavi)、材料データリポジトリ (MDR)、データ蓄積・共用サービス (RDE) などについて、ご紹介したいと思います。また、この一環として進めているオープンアクセスジャーナルである STAM/STAM Methods と MDR の連携についてもお話しいたします。皆様が、材料データの蓄積・流通について考えるきっかけになれば幸いです。

Science and Technology of Advanced Materials (STAM) および Science and Technology of Advanced Materials: Methods (STAM-M) は、国立研究開発法人物質・材料研究機構 (NIMS) と Empa が支援するオープンアクセスジャーナルです。